

かけなき命を大海のみくす（水層）となし、

浅間の鬼神ちこく（地獄）ひ（へ）生なからの人を

すゝめ、一時のさひなん（災難）露まほろし（幻）、稻

妻きゆる（消る）かことく、誠に大變、前代未聞

のことし

一村々田畑、泥五尺壹丈余押埋、其（その）中火石

有<sup>レ</sup>之、焼事二十日余也、あわれ（哀れ）なるかな

我妻郡川附村々泥死人こんはく（魂魄）残て

まよひ（迷い）、川筋沢辺通りてなく聞あり

毎夜々々の事なれハ、寺々に綾（饋<sup>\*</sup>カ）食淨

水すゝき（濯ぎ）、かき（餓鬼）道を供養し、追善の

後、鳴こひ（声）止め